

【豊平区】 シンボルマーク(昭和52年7月制定)



区のキャラクター「こりん」と「めーたん」



アップルスマイル

「おもてなしの街・豊平」を表すロゴマーク

〈位置と広さ〉

市の南東部に位置し、北は東北通で白石区、西は豊平川を隔てて中央区、南西部は丘陵地で南区、東は清田区と接する。面積は46.23平方キロメートルで、東西に6.7キロメートル、南北に14.5キロメートルの広がりを持ち、10区中8番目の広さとなっている。

〈地勢と現況〉

豊平地区は、明治時代からの歴史を感じさせる寺社と再開発事業による近代的なビルなどが建ち並び、新旧の味わいを見せている。平岸・南平岸・中の島・月寒地区は古くから商業地域として発展し、活気あふれる街並みが続いており、西岡・福住・美園・東月寒地区は、かつては牧場や田畑、果樹園が広がっていたが、現在は落ち着いたたたずまいをみせる住宅街となっている。

また、さまざまな樹木や鳥、昆虫などを見ることができ「西岡公園」、緑のセンターを中心に、針葉樹、花木、野花、庭園などを楽しめる「豊平公園」のほか月寒川・望月寒川・吉田川など河川も多く、憩いと安らぎを与えてくれる。さらに「札幌ドーム」をはじめ、道立総合体育センター「北海きたえーる」、通年型のカーリング専用施設「どうぎんカーリングスタジアム」などのスポーツ施設の他、さっぽろ羊ヶ丘展望台などの観光施設、大学や研究機関も充実している。

区は、さまざまな施設に恵まれ、国内外からの多くの方々が訪れている状況を踏まえ、「おもてなし」をキーワードとして、地域と一体となって街の魅力と活力を高めるまちづくりを進めている。

〈歴 史〉

安政4年(1857年)に行われた札幌越新道の開削に伴い、豊平川には渡し守が必要として6年には本州から志村鉄一が永住し、通行屋の番人などを行った。明治4年(1871年)に現在の岩手県などから多くの方が平岸や月寒に移住。平岸村、月寒村、豊平村の合併などを経て、41年に町制が施行され豊平町となる。

農業が盛んで、特にリンゴは明治時代から平岸を中心に栽培され、「平岸リンゴ」は昭和初期には海外に輸出されるほどであった。また明治6年に開通した現在の国道36号に沿って商店や工場が立ち並び、にぎわいを見せた。

その後、昭和36年に札幌市と合併。47年の区制施行により旧豊平町の地域は豊平区と南区になり、著しい人口増加などのため、平成9年に南東部が清田区として分区し現在の豊平区の形となった。

〈インターネット・ホームページ・アドレス〉

豊平区役所ホームページ「夢ひらく 花ひらく とよひらく」<http://www.city.sapporo.jp/toyohira/>

【清 田 区】

シンボルマーク(平成9年11月制定)



平岡公園の梅林

〈位置と広さ〉

清田区は、札幌市の南東部に位置し、白石区、厚別区、豊平区、南区、恵庭市、北広島市の4区2市と接している。面積は、59.87平方キロメートルで、東西に7.8キロメートル、南北に15.3キロメートルの広がりを持ち、10区中、南区、西区、北区に次いで4番目の広さを有する。

〈地勢と現況〉

清田区は、区域のおよそ3分の2が緑豊かな丘陵地と山林に覆われ、南北に縦断するあしりべつ川(厚別川)、山部川などの河川にも恵まれた自然豊かな区である。南西部には白旗山を有する市最大の市有林があり、「ふれあいの森」や「自然観察の森」が整備され、行楽や散策の場として多くの人々に利用されている。

区民から「あしりべつ川」と呼ばれ親しまれる厚別川は、アシリベツの滝、有明の滝などから流れが合流し豊平川に注いでいる。かつて両岸の平地は、札幌で一番の米産地帯であったが、今は河川敷に花壇や樹木の植栽が施され、散策やパークゴルフなど区民の憩いの場となっている。また、平岡公園には、約1,200本の梅の木が植栽され、梅の名所として広く親しまれている。

区では、「多くの方が行き交い、安心して住み続けたいまち」を目指し、地域住民や地元企業、各種団体の代表者等で構成される「きよたまちづくり区民会議」で検討された清田区の魅力、「自然」(「白旗山」「あしりべつ川」「平岡梅林」)、「食」(「きよたマルシェ」「きよたスイーツ」)、「音楽」(「きよフェス」「区民コンサート」)を活かしたまちづくりを区民と協働で進めているほか、安心して生活できる環境づくりのため、防災、子育て(「子育てインフォメーション」等)、健康増進(「きよっち健康ポイント」「健活ラボ」)等の取り組みを進めている。

〈歴 史〉

明治6年に月寒開拓団の一員であった長岡重治が、“あしりべつ”(清田区の中心部)へ居住したのが最初の入植であるといわれている。その後個別の開拓が続き、20年代に本格的な開拓が始まった。昭和19年の字名改正により、清田、真栄、北野、平岡、里塚、有明の呼称が生まれた。

昭和30年頃までは水田やリンゴ畑が広がる農村地帯であったが、豊平町と札幌市が合併した昭和36年に「清田団地」が、以降「八雲台団地」「北野団地」「真栄団地」と大型団地が次々と造成され、のどかな農村地帯は住宅地へと姿を変えていった。

そして、平成9年11月4日、よりきめ細かな行政サービスを図るため、豊平区から分区して清田区が誕生した。平成29年11月には区誕生から20周年を迎えている。

〈インターネット・ホームページ・アドレス〉

清田区役所ホームページ「きよたF a n倶楽部」<http://www.city.sapporo.jp/kiyota/>

【南 区】 シンボルマーク(昭和52年6月制定)



市民の水がめである豊平峡ダム

〈位置と広さ〉

南区は、札幌市の南西部に位置し、小樽市、千歳市、恵庭市、伊達市、京極町、喜茂別町そして赤井川村の4市2町1村と接している。面積は、657.48平方キロメートルで、市の総面積の約60パーセントを占め、東西に33.2キロメートル、南北に37.6キロメートルの広がりをもつ。

〈地勢と現況〉

区内には、無意根山や空沼岳など標高1,000メートルを超える山々がそびえ、真駒内川をはじめとした大小100余りの河川が豊平川へと注いでいる。市街地は平坦な北東部とこれらの河川に沿って形成されている。

豊かな自然に恵まれた区内には、滝野すずらん丘陵公園や真駒内公園など大規模な公園・緑地や市民の水がめである豊平峡ダムと定山溪ダム、札幌国際スキー場などがあり、市民のレクリエーションの場となっている。また、開湯から150年以上の歴史がある定山溪温泉には、国内外から毎年多くの観光客が訪れている。そのほか、“芸術文化の薫る街”のシンボルとしての札幌芸術の森をはじめ、札幌市立大学芸術の森キャンパス、軟石採掘場跡を造成した石山緑地など、新しい芸術文化の発信地となっている。

南区では、地域の皆様の安心・安全で豊かな暮らしを守るため、福祉・健康・子育て、防災、道路・公園の維持管理などの取組を進めるとともに、区内の大学等と連携し、地域資源であるアートを活用したまちづくりや、豊かな自然環境をはじめとした区の魅力のPRにも力を入れている。

〈歴 史〉

修験僧定山が豊平川上流に仮小屋を建て、湯治場をつくったのが定山溪温泉の始まりとされ、定山溪の名はこの定山からとったものといわれている。明治4年には、現在の国道230号の前身となる「本願寺街道」が開削され、翌年簾舞に通行屋が置かれた。また、石山地区は良質の軟石を産出した土地として有名であり、明治から大正にかけて採掘が盛んに行われ、札幌の近代化に貢献した。その後人口も次第に増加、大正7年定山溪鉄道が開通したことにより中心部との交通も便利になり、沿線一帯の発展が大きく促された。

さらに、南区は、昭和47年の第11回冬季オリンピック大会では主会場となり、会場へのアクセスとして前年に地下鉄南北線が開通するなど、都市基盤の整備が急速に進み、街並みが形成された。

〈インターネット・ホームページ・アドレス〉

南区役所ホームページ「ゆたかな緑 きよらかな水 みなみ区」<http://www.city.sapporo.jp/minami/>

【西 区】 シンボルマーク(昭和51年7月制定)



琴似発寒川での稚魚放流

〈位置と広さ〉

西区は、市の西部に位置し、東側は中央区に、南西側は山岳地帯に沿って南区に、西側は手稲区に、そして北東側は新川と琴似川をはさんで北区に接している。面積は75.10平方キロメートルで、東西に14.1キロメートル、南北に11.3キロメートルの広がりをもつ。

〈地勢と現況〉

区の南西部は手稲連峰を中心とした山々に囲まれ、そこから流れ出た琴似発寒川が区を中心を南北に流れている。この川は、途中、名勝「平和の滝」となって流れ落ち、左股川と合流して水量を増しながら、北部で琴似川と合流して新川となる。西区は、ほぼこの琴似発寒川の扇状地の上に発展している地域である。南部の福井地区には、パークゴルフ場や炊事広場などを備えた五天山公園があり、市民の交流・憩いの場として親しまれている。一方、北部には発寒鉄工団地を有し、本市の第2次産業の重要拠点としての役割を果たしている。また、東部の琴似地区周辺は、区役所をはじめとする公共施設やさまざまな商業、文化施設が集積し、区を中心としての役割を果たしている。

区の「未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業」では、琴似発寒川での稚魚放流や一斉清掃、区民が気軽に本格的な演奏を楽しむことができる無料コンサート「コトニジャズ」・「コトニクラシック」や芸術文化の祭典「西区文化フェスタ」など、地域の特性を生かした事業を区民と一体となって展開している。また、環境に優しいまちづくりの取り組みとしては、平成13年度から、地域の団体と「アダプト・プログラム」による環境美化活動を実践しているほか、町内会、学校、企業、NPO法人などから組織される「西区環境まちづくり協議会」が中心となって、環境推進区として各種事業を実施している。

〈歴 史〉

西区は、琴似発寒川と左股川を境として、東側一帯と西側の発寒地区が旧琴似町地域、西側の残り一帯が旧手稲町地域である。旧琴似町地域の開拓は、屯田兵の手により行われた。明治8年、北海道で最初の屯田兵が琴似地区へ入植。翌9年には発寒地区へも入植し、合わせて240戸が開拓と北方警備の任に当たった。一方、旧手稲町地域については、明治5年、旧仙台藩士47戸が西町のあたりに入植してから開拓も本格化。その後、西野、平和、福井地区などに広島県人や福井県人などが入植した。

琴似町は昭和30年に、手稲町は昭和42年にそれぞれ札幌市と合併。人口の急増に伴い、平成元年11月6日に、それまでの西区を分区して手稲区と現在の西区が誕生した。

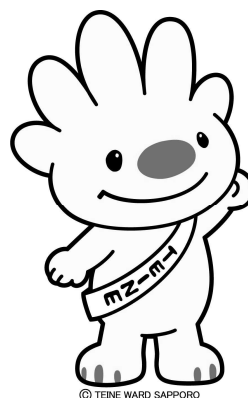
〈インターネット・ホームページ・アドレス〉

西区役所ホームページ「Hello!西区」<http://www.city.sapporo.jp/nishi/>

【手 稲 区】



シンボルマーク（平成2年3月制定）



手稲区マスコットキャラクター「ていぬ」

〈位置と広さ〉

手稲区は市の北西部に位置し、南東は西区と、西は南区・小樽市と、北東は北区・小樽市・石狩市と、北西は小樽市と接している。面積は 56.77 平方キロメートルで、東西に 10.9 キロメートル、南北に 9.4 キロメートルの広がりをもっている。

〈地勢と現況〉

地形は区域を東西に横断している J R 函館本線よりも北部は低地で泥炭層からなり、南部は北部に比べて高く火山岩（安山岩）からなっている。

手稲区は市内でも自然に恵まれた地域であり、特に、区のシンボルである手稲山（標高 1023.12 メートル）は、1972 年冬季オリンピック札幌大会会場となり、その存在を全世界に広めた。現在は、四季を通じてスポーツやレクリエーションが楽しめる空間として、市民に親しまれている。

目覚ましい発展を遂げた手稲区では、人口も分区当時の 10 万人から 14 万人を超えるまでに成長した。J R 手稲駅の南側には、古くから栄えてきた商業地が広がり、北側一帯には新興住宅を背景に幹線道路沿いに大型店舗や商店街の広がりが見られる。曙地区には工業団地が立地し、また山口地区では砂地を生かした露地栽培が行われ、カボチャ（大浜みやこ）やスイカ（サッポロスイカ）などの特産品を全国に出荷している。

区では、「人に優しいまちづくり」と「ふるさと手稲づくり」をまちづくりの目標に掲げ、各種事業を実施。災害時における地域の自主防災力の向上を目的とした研修会の実施、大学や近隣市と連携したまちづくりの推進、手稲山の自然に触れ親しんでもらえるようなイベントの開催など、区民が住んでいて良かったと実感できるまちづくりの実現に向けて取組を進めている。

〈歴 史〉

手稲は、明治の初期に北海道開拓の交通の要衝として開けた街である。

昭和 10 年代に最盛期を迎え国内第二位の産金量を誇った手稲山の金鉱山は戦後次第に衰退していき、昭和 46 年に閉山した。昭和 42 年に、手稲町は札幌市と合併し、以後、新興住宅地が次々と開発され、発展のスピードは加速した。昭和 47 年には、札幌で冬季オリンピック大会が開催され、手稲山はアルペンスキーやボブスレー、リュージュ競技の会場となり、その名が世界に知られるようになった。平成元年 11 月 6 日に西区から分区し現在の手稲区が誕生した。分区から 20 周年を迎えた平成 21 年には、マスコットキャラクターの「ていぬ」が誕生し、多くの区民に愛されていることに加えて、その人気は区外にも広がりをみせている。また、令和元年度には、区制 30 周年を手稲区全体で祝う取組を実施した。

〈インターネット・ホームページ・アドレス〉

手稲区役所ホームページ「ていぬっていいね」<http://www.city.sapporo.jp/teine/>